

先進地に学ぶ

市街地の活性化

甲賀市中心市街地活性化基本計画策定状況



京都市中書島と 烏丸界隈の町家視察

甲賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会の第二回視察研修では、「歴史を活かした観光商業の成功事例をみる」をテーマとして、去る10月27日に、京都市の伏見中書島と烏丸界隈の町家活用事例を視察しました。中書島は、清酒・坂本竜馬・御香宮のまちで、TMOが活性化に取り組んでいます。また、烏丸界隈の室町は、町家を再生した店舗がにぎわいをみせています。

参加した委員のアンケートでは「観光客を受け止め樂しませる設備が整備され、行政、民間の努



▲ 伏見中書島視察

力を感じる。「私達の今の生活は大型店を中心に消費生活のみで考えているのでは。」昔の町家が形や色を変えて活気を出しているのに驚いた。外見は古いが改装され、素晴らしい内容に変わっている。水口の町家も変えられるのでは。」などといった意見が出されていきました。

第二回策定委員会でも研修結果の報告を行い、今後の計画策定の参考にするなど成果を確認しました。

第二回策定委員会では、 進め方や事業の重点化が焦点に

第二回策定委員会では、事務局より「甲賀市中心市街地活性化



▲ 烏丸、室町界隈視察

化基本計画」の素案の提出を受けて、活発な議論がされました。現段階で確認されていることは、次のとおりです。

活性化のテーマ

住む人が誇りと愛着を感じる「街なか定住」と訪れた人がまちの魅力とやさしさにふれあえる「街なか交流」の推進

計画推進の基本的な考え方

本計画の前期(平成18～21年度)は、拠点と組織を立ち上げ、街なかに訪れる人の流れをつくる期間と位置づけられます。また、後期(平成22～25年度)は、街なかに活気をつくり、街なかに住む人を増やす期間と位置づけられます。さらに、広範な計画区域の課題を着実に克服していくために、整備するポイントや事業の思い切った重点化を進めます。

各段階における事業を着実に実現していくにあたっては、取組みを「衆人、組織」「つくり」、「座」「ハード」「ソフト」の3つに分けて考えます。

事業推進の基本的な考え方

前期では旧東海道とその周辺において施策を展開します。そのまちづくりのコンセプトを「素敵な出会いのあるまち 浪漫街道 水口宿」とし、「衆」を育てるシンボル施策として「街道塾」を展開します。また、「座」をつくるシンボル施策として「水口座」を整備します。さらに、「市」を開くシンボル施策として「曳山市」を開催します。

次回委員会では、これらの再検討、実現のための方策や実施方法が検討される予定です。また、1月に2回目の先進地視察を行う予定です。

※注……TMOとは
TMOとは「Town Management Organization」の略で、まちづくりをマネージ(運営・管理)する機関をいいます。施設の整備や運営主体となることもあります。業務として、各商店街の特徴付け、計画区域内のテナントの配置・誘致、駐車場、ポケットパーク等の環境整備、区域内美化、イベント、共通カード等の事業が考えられます。

【問い合わせ】
商工観光課
☎ 65-0707
FAX 63-4087